

## 教育長定例記者会見 会見録

日時：令和4年4月15日（金） 11時00分～

場所：教育委員室

### 発表項目

- ・ 「地域課題解決型キャリア教育の手引き」について
- ・ 防災学習用「360度地震体験動画」を活用した防災教育の取組について

### 質疑事項

- ・ 県立高校生強盗致傷の疑いによる逮捕について

### 発表項目

#### ○「地域課題解決型キャリア教育の手引き」について

本日は、2点ございます。

1点目は、地域課題解決型キャリア教育の手引きを策定して運用していくということです。三重県教育委員会では地域を学び場とする課題解決型学習モデルの構築を目指して、地域課題解決型キャリア教育のモデル構築事業を実施してまいりました。事業の概要にありますとおり、令和元年度から3年間、1学年3学級以下の県立高校、9校10校舎を実践パイロット校に指定し、地域の行政、あるいは活躍されている住民、職業人の方、多くの方々の協力を得ながら、高校生が地域の産業や文化などを題材に、地域の魅力や課題も知って、自分たちに何ができるかを主体的に考え行動することで、当事者意識を持って地域の活性化や課題解決に取り組んできたところです。

生徒は、こうした地域の大人たち世代を超えた多様な価値観に触れることで、他者と協働する力、あるいは、自分と、社会との関わりを考える力など、これからの変化の激しい社会に対応する力を育むとともに、自分が生活して生まれ育った地域への愛着や誇りを高めて、その地域で活躍できる将来像もイメージすることをやりました。将来にわたって、学び続けるということを大切にする、そういった能力、資質の育成を目指して実施をしたものです。

お配りした冊子に、実践例を記載しており、幾つか紹介しますと、例えば紀南高校では、学校設定科目で、地域産業とみかんを設け、1年間を通じて、地域の特産であるかんきつ類、これの栽培から流通までの過程とか、関連する産業などについて、実際の体験もしながら、体系的に学びます。農家の経営についても、生産者との意見交換とか、加工して消費者の手に届く施設での学習も通じて、PR方法とか商品開発による収益の向上についても考え、産業そのもののあり方も、勉強をしているところです。

志摩高校では総合的な探究の時間を活用して、生徒全員が3年間にわたって地域を舞台に探究的に学ぶ志摩学に取り組んでおります。地元の事業者による講演会、地域のさまざま

な事業者施設でのフィールドワーク、インターンシップを通じて、地域理解を深めて、地域の魅力を自分たちで考えた課題への改善方法など、クラス発表、学年発表、学校全体での成果発表会で発信をしています。

飯南高校では、1年生の産業社会と人間という科目で、地域産業観光資源のフィールドワークを通じて、地域の魅力や課題を感じて、自分ごととして向き合う、姿勢を身につけます。2年生のキャリアデザインで、地元企業でのインターンシップを行って、地域での企業経営の工夫、努力等について、直接大人から学べます。3年生の飯南ゼミで、1年生で学んだ知識や経験に加えて、さらに地域の大人や専門家のアドバイスを経て、一人一人が、自分のテーマを決め、その研究を深めて、飯南ゼミ発表会で地域の方々に学習の成果を発表しております。

### ○防災学習用「360度地震体験動画」を活用した防災教育の取組について

それから2点目が、防災学習用の360度地震体験動画を活用した防災教育に今年度から取り組むというものです。後で少し動画を見ていただきますけれども、三重県教育委員会では児童生徒が地震に遭遇したときに、命を守る適切な判断、行動ができるよう、これまで防災ノートとか、避難訓練等の防災学習に取り組んでおり、今年度から地震発生時に、身の回りで起こる状況を模擬体験できる防災学習用360度地震体験動画を活用した防災教育に取り組めます。その概要ですが、児童生徒が生活している身近な場所で、これから発生が危惧される南海トラフ地震の際に、県内で震度6強が想定されますけれども、その揺れが発生したときの状況を再現しています。それで再生している端末画面を動かすことで、動かした方向の様子を360度見られるという動画であります。児童生徒に昨年度から、1人1台学習端末が配布されておりますので、その端末を活用して学習をいたします。主な特徴は、児童生徒が、生活する場所、教室、校庭、あるいは外出、通学路、あるいは家の室内、この5つに分け動画を策定しています。再生時の音声は地震の効果音のみとして、視聴時の没入感を高めるようにしております。授業で活用しやすいように、再生時間は大体1分30秒となっております。

2番の活用イメージ、学校での活用、例えば教室編を視聴し、教室で地震に遭遇した時に、ロッカーの転倒とか窓ガラスも場合によって破損するとか、実際に自分の身の回りで危険なことが起こることを認識し話し合っ、例えば1人1台学習端末で自分の教室なら、どんな危険が考えられるかも写真に撮ったり、紹介し合っ、自ら命を守る行動を考えます。避難訓練の時も校庭編を視聴し、地震が発生したら校庭や、運動場がどのような状況になるかをイメージしてから訓練を行います。家庭での活用で、保護者の方と一緒にこの室内編を視聴してもらって、室内で地震に遭遇したとき、冷蔵庫とかテレビとか家電が転倒したり、食器類や照明が破損するとか、自分の家の中にいろんな危険があることを具体的に認識をして、例えば転倒防止対策とか、家で地震が発生した際に、取るべき行動を話し合っ、普段から命を守る安全対策を進めていただきたいと思います。

通学路につきましても同様に、通学路を視聴し、自分が通学している場所でも、同じようなことがないかを確認をしたりしてもらいます。

県教育委員会は、希望する学校に、学校防災アドバイザーがいますので、それを派遣し、動画を使った防災事業の進め方などの助言を行ってまいります。それから、学校防災リーダーが各学校に1人いるのですけれども、その研修など、教職員を対象とした防災に関する研修に、動画を活用した防災教育の実践方法を学ぶ内容も取り入れてまいります。他にモデル事業も開催して、その様子を各校に配信するということ、防災事業実施マニュアルを作成して各学校に配布したいと思います。この動画とあわせて、ポータルサイト学校防災みえもリニューアルをしております。

私からの説明以上ですけれども少し動画を見ていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

(教育総務課) こちらが動画が入っているページになります。

こちら見ていただきますと先ほど言いました、5つの動画があり、教室編の方を再現させていただきます。最初ちょっと360度動画の説明が入りますのでちょっと飛ばさせていただきます。

～防災学習用「360度地震体験動画」(教室編) 放映～

揺れがおさまった後もしばらく再生して、周りがどういうふうになるかを確認できるような時間を設けている動画になっております。教室がこんな感じになりますよというのを見ていただけます。これが教室編。もう一つこれから10秒後に地震が発生するというので、一般のご家庭の室内をモデルにしております。

～防災学習用「360度地震体験動画」(室内編) 放映～

地震が発生した後、家電、窓ガラスが割れ、そこで冷蔵庫も倒れてドアを塞いでしまうというような状況が想定されるということです。テレビが倒れたり、ガラスは奥が割れたりというような状況が考えられます。この動画も三重大学の川口先生にも十分見ていただいて、本当に実際に震度6強の地震が揺れたときに、それぞれの場面でこういったことが生じるということをおわかってもらうということで作成いたしました。

### 発表項目に関する質疑

#### ○「地域課題解決型キャリア教育の手引き」について

(質) まず、キャリア教育の手引きにいけますけれども、実際このキャリア教育の手引きは、どこに配る、どういう風にして学校に配布するのか。

(答) 県立学校すべてに、すでにこの4月に配布をしています。

(質) すべての県立学校に配布した。

(答) はい。配布しました。

(質) キャリア教育の手引きを使ってどうして欲しいか、改めて教育長としてどう活用して欲しいなというところを簡単をお願いします。

(答) これから変化の激しい時代の中で、子どもたちが豊かな未来を築いていくことで、学校での、教室での勉強はもちろん大事なんですけども、地域で活躍されている地域の産業人とか大人の方々に、実際の地域の様子、課題も含めて学びながら、そのことで多様な価値観に触れながら、子ども同士の協働的な学びを通じて、社会における大人の活躍というのを参考にしてもらいながら、自分たちが主体的な学びをより進めてほしいというふうに思います。それは、それぞれの学校の状況に応じて、その地域の課題解決型のキャリア教育の一つの体系として、進めてもらえればと思います。

(質) もうちょっと事務的に言って欲しい。教員がこれを読んでもらうということ？

(答) そうですね。まず校長が認識して、そういったキャリア教育に携わっている教員が、しっかりこの実践を見てもらって反映していく。

(質) これは生徒が直接読むわけじゃなく、教員向けっていうことでいいですかね。

(答) そうです。

(質) 校長や教員に読んでもらって、各学校のキャリア教育に反映させてもらうという。

(答) そうです。

(質) このような手引きを作ったのは初めてですね。

(答) 初めてです。

(質) 全国的にはどうですかね。

(答 教育政策課長) ちょっとわからない。

(答) こういう地域課題解決型っていうのは最近されているのですが、平成 30 年度、29 年度から準備して、平成 30 年度から取り組み始めたのはまだ珍しかったと思います。それで、体系的にこういう形でまとめたものは、私としてはどうこうしているっていうのは認識してないんですけども、全部聞いて調べたってわけではないんですけども。

(質) 珍しいことではある。あえて、そもそも 1 学年 3 学級以下の県立高校で、地域課題解決型のキャリア教育をモデル的に実施したという、ねらいは何だったのですかね、そもそも。

(答) 県立高校の活性化っていうのは、いろんなやり方とかいろんな形があると思うのですが、1 学年 3 学級以下の学校については特に、地域とのつながりも今までも一定あったということと、小規模な学校は、生徒の関係性は深いんですけども、場合によっては固定化されたりとかということもありますので、そういった、立地している場所とか、子どもたちの状況を踏まえて、その地域の活躍されている大人たちの協力を受けてより多様な価値観とか課題も認識して、学びを広げていくっていう目的で、この 3 学級以下のところということで始めさせていただきました。

(質) 1 学年 3 学級以下と聞きますと、活性化計画でいう、いわゆる、この統合も視野に検討する対象というふうにもなっていますよね。そこらとの今回この兼ね合いっていうところは特にないのですかね。

(答) 学校の活性化は常に考えていかなければならないですし、この 3 月に策定した活性化計画において、地域において、学びとその配置のあり方について議論して、丁寧に議論をしてくれていますので、その中で、こういった課題解決型学習をしてきているっていう成果とか、あるいは、そのことによる効果とかも含めて、今までも検証してはいますが、そういった取組もその協議の中で共有しながら、その地域の学校の学びとか、どういうふうにするかということも丁寧に議論をしていきたいというふうに思っています。

(質) わかりました。まずこの手引きに質問ありますか。

(質) 今の関係ですけれども、活性化計画の中で、その 1 学年 3 学級以下の学校は、高校とか、ということが書かれていると思うのですが、令和元年から 3 年間、地域課題解決型キャリア教育というものを進めてきて、それによって、例えば、生徒数とか入学者に変化があまり見られなかったもので、そういう 3 学級以下も統合に視野という話になっていたということではないということですか。

(答) そうですね、成果はいろんな形で、子どもたちが学んで、成長したっていうのももちろんあるのですが、その活性化といった面の時に、入学者数がどういったふうになったかとか、入学者、地域の少子化っていうこともあったのですが、入学者数が増えたということにはなかなか残念ながら至らず、減ったという状況がございます。ですので、そういった面では厳しい状況は続いているのかなというふうに思っています。ですので、そういった状況も踏まえまして、今回の、今年度から実施する活性化計画においては、各地域の高校の学びと配置のあり方について検討を進めると。その中で、1 学年 3 学級以下の高等学校は、統合についての協議を行うというふうにさせていただいて、ただ統合という結論ありきで協議するのじゃなくて、地域の実情に応じて、丁寧に進めるというふうにさせていただいています。その際に、今、取り組んでおります、地域と連携した学びとか、この課題解決学習とか学校独自の学びについても、その辺の成果であるとか課題も共有しながら丁寧にやっていきたいというふうに思っております。

#### ○防災学習用「360 度地震体験動画」を活用した防災教育の取組について

(質) じゃあ、地震体験動画ですけども、これも同じように聞きますが、教育委員会として、そういう地震の発生を想定した動画を使ってするというケースは他でもあるんですか。

(答) 360 度動画は、他の大分県では一般の方向けには少しあるようなのですが、学校向けにというものは全国でも多分ないんだと思っています。

(質) 思う？

(答) ないです。

(質) 話の腰を折ってしまうようなのですが、これは防災対策部の仕事と違うかなと言ったら、あえて教育委員会で作るねらいと言ったらどうですかね。

(答) 防災ノートというものを、まず作っています。これは東日本大震災が発生した年度末に、三重県における学校の防災学習、防災教育をどうやって進めようかということを議論して、その時に大綱的なものを作って、その一環としてこの防災ノートを作りました。防災ノートでワークシートも作って、家庭へ持ち帰るということをしています。それから、避難訓練として、地域と連動した避難訓練もしております。避難訓練も含めて、コロナ禍において、実際の訓練がなかなか従前のようにはいかないという状況もございました。そうしたことも踏まえ、今回こういった体験動画を、子どもたちが学校において、あるいは家庭において防災学習に取り組むというのは、県教育委員会として重要な事項でありますので、我々としてそういうことをやろうと思って取り組んだということです。

(質) きっかけとしては、コロナの影響で訓練が予定どおりできないという中で、家庭などで見てもらったりして、という目的、ねらいがあるということでもいいですか。

(答) そうです。地震については南海トラフの発生が危惧されるということもあって、実際にそれと1人1台学習端末を子どもたちが令和3年度から学校で持つということもありましたので、そういう中でこういうコンテンツを作れば、より効果が高まるという状況が整ったと思ったので作成したものです。

(質) 地震はどんな地震を想定して、南海トラフ巨大地震の発生を想定したっていう。

(答) 震度6強の地震を想定しています。

(質) 南海トラフ地震で想定される震度6強ということでもいいですね。これはVRではない？

(答) VRではないです。自分の学校にあるタブレットとか学習端末ですということ、VRではないです。

(質) 一般の人もこのポータルサイトから見ることはできる？

(答) 見ることはできます。見ていただくことは可能です。

(質) 事業費はいくらくらいかかったのですか。

(答) これとホームページのリニューアルをあわせて、1,700万円くらいです。

(質) そのうち動画はいくらくらいですかね。

(答 教育総務課) トータルになってきますので。

(質) まとめて委託した？

(答 教育総務課) そうです。動画作成と、1人1台パソコンに対応できるようなホームページのリニューアルということでの一括での委託になります。

(質) 1,700万円？

(答) はい。

(質) これ、活用する方法ですけども、とりあえず1人1台端末には動画を送るんですかね。

(答 教育総務課) はい。それぞれの端末から学校防災みえのメニューにアクセスをしてもらって、各児童生徒がそこから視聴するという形になります。

(質) 一般の人もアクセスできるわけですから、児童生徒に積極的にプッシュしていく、何か方法はあるのですか。

(答 教育総務課) 1人1台の端末にショートカットアイコンと言いまして、すぐに画面をタッチしたらサイトに行けるよう、端末にショートカットアイコンを作るようにということ市町の教育委員会を通じてお願いしてところで、いちいちウェブで検索せずに画面上ですぐにできるように。

(質) そのアイコンは絶対に、児童生徒の1人1台端末に作ってもらう？

(答 教育総務課) というようにお願いしています。

(質) 避難方法とかの提案はしていないのですか。ただ、そうなったらどうなるかっていう。

(答 教育総務課) そうですね。これはあくまで発生したらどうなるかってことを体感してもらうことに主眼を置いた動画となっています。

(答) 避難方法については、それぞれの学校の立地場所とか、当然これまで定めておりますし、今回、この動画を見て、場合によっては運動場とかの避難の場所とか避難の方法とかも、学校によっては検討してもらってもいいかもしれませんが、そこはそれぞれの学校で対応してもらうことになります。

(質) 先ほど、作成過程のところ、コロナで訓練がなかなかできないというお話があったかと思うのですが、今、避難訓練って、ほぼできていないような状況なんですか。校庭で、みんなで集まってみたいのは、なかなかやっぱり難しい？

(答 教育総務課) そうですね、例えば、保護者と一緒になってやる訓練ですとか、地域の方と一緒にとは、なかなか外部の方が学校に来にくいことがありますので、どうしても規模が縮小されていたり、もしくは密を避けるために、普段と違った簡易版って言ったらいんですかね、そういう感じになっていますので、以前のような訓練にはなかなか戻っていない、そういう状況です。

(質) クラスに割ってとか、学年ごとに分けてやるとか。

(答 教育総務課) そうですね。少人数で分けてやるとか。それも中止している学校もまだありますので、なんとかこういうのを活用してほしいと思っています。

(答) 令和元年度までは、そういったときに、自治会の方とか、あるいは場合によっては幼稚園と小学校が連携してとか、実際の起きた時に学校にも避難される方もみえるということもありますので、より実態に即した形でやっていたのですが、そのことがかなり難しくなると、今はそういう状況です。

(質) こういう実際に何が起きるかっていうのを見せるものは、学校に特化してなくて、今までもあったと思うのですが、三重県で作った場合に、例えば海岸部ですとか、津波の影響が懸念される地域もあると思うのですが、何か県の実情にあわせて、というところはあるのでしょうか。

(答 教育総務課) 県にもいろんなエリアがありますので、作成の過程でも考えたのですが、今使っている防災ノートの方で、実際にこういう場面をぜひ考えてほしいという場面に特化したというところがありますので、地域性というところでは薄いかもしれないですが、児童生徒にぜひこういう場面での体験をしてほしいというところを選んで作らしていただいたというところです。

(質) 先ほどご説明の中で、川口先生も見えていただいたという話ですけど、これは、リーダーとして川口先生の監修を受けたということを書いていいのか、それとも、もう作るにあたっては、民間業者にポンとお願いして作ってもらって、最終的にでき上がったものを見てもらって、これだったら問題ないよと。

(答 教育総務課) 制作過程の中でも何度も川口先生に入っていて、各場面でのちょっとこういうような、先ほどだったら冷蔵庫じゃないですが、落ち方とか、こういうふうにしたらいいとか、何度もディスカッションに入っていて、一緒に作成しましたもので、監修していただいたという形の方が、言葉としてはいいかなと。はい。

(質) 監修費用も入って1,700万円。

(答 教育総務課) そうですね。監修費用というか、はい。

(質) 無料の監修じゃない。

(答 教育総務課) 一部は、検討する会議の場に先生来ていただきましたもので。

(質) そしたら、本当に純粋なこの動画とホームページのリニューアルでいくらってというのは。

(答) 川口先生にお支払いしたのは、ほんの数万程度です。

(質) そしたら、製作費はリニューアルを含めて1,700万円で、それはいいのですね。

(答 教育総務課) それは間違いないです。

(答) 正確には、1,765万円あまりですけど、すいません。

(質) これはいつから公開。

(答 教育総務課) 公開は始まっていますから、3月の20、そうですね、24日からです、はい。

(質) この学校防災みえで。

(答 教育総務課) はい、そうです。

(質) 公開したタイミングが結構前になると思うのですが、事前に、その前に公開していただいた方がメディアとしては取り上げやすい。どうしてこのタイミングでの発表になったわけですか。随分と公開されてから時間が経つとね。

(答 教育総務課) 3月24日、この令和3年度に作成いたしましたので、一旦、それで作成しましたというのを皆様にお知らせさせていただきました。これから年度に、これからスタートして、防災教育、これを使ってやっていくということで、改めてご案内させていただきました。

(質) 1,700万というのはかなりの額。何にそんなお金使ったのですか。普通、動画とか、



100万とかそれぐらい、自治体で作るものってせいぜい、100万200万ぐらいですよ。1,700万円で、何にかかったのですか。

(答) 特にこの動画の部分も、5つの部分とそれからホームページも。

(質) 動画の。5つの動画、どういう部分にそう。

(答 教育総務課) やっぱり360度作るってなりますと、特に、地震の再現になりますもので、一つ一つの落下のとことかですね、そういうところをCGも組み合わせての動画になりますので、どうしてもその辺の製作費のとことか、クリエイトの部分にお金がかかってくるっていう形になりますので、そういう形で、その金額になったという形です。

(質) なるほど。じゃあ、ぜひ有効活用してもらわないと困りますね。

(質) 一般競争入札。

(答) 企画提案コンペ。

(質) ちなみに県外の会社ですか

(答) そうですね。

(質) 制作会社。なんて言ったらいいですか。

(答) そうですね。はい。

(質) 県外の制作会社にホームページを含めて1,760万円で委託を行った。

(答) はい。そうです。

(質) 1760万を正当化するような、ちょっと一言もらっていいですか。

(答) はい。私どもとしては、防災学習をしっかり進めていきたいということで、それで、南海トラフ地震が危惧される。それから、今の時点において、通常の従来の方々とか、連携した避難訓練等が難しい状況にある中で、子どもたちが自分たちの命をしっかり守れるようにということと、それから、1人1台学習端末の効果を活用して、ホームページも、それに対応したものにリニューアルということも含めてさせていただきました。

この内容については、学校にもしっかり周知しながら、この防災ノートは紙ですけれども、これと本当に有機的に連携して、子どもたちが実際に今までは紙であったかもわかりませんが、実際の疑似体験ですけれども、画像で認識して本当にこういうことが起こるってということを、学校において、一人一人が体験をして、そのことを、子供たちがこう話し合って、自分たちの命をこういうふうを守っていかうということをしつかりやっていきたいと思っています。それから学習端末は、家庭でもこれ見ていただけますので、家庭編とか通学路編とか外出編ということもございますので、そういった部分においても、なかなかそこら辺まで全部は取り組めてなかったんですけども、家庭とも連携してしっかり取組を進めていきたいというふうに思っております。今までこの防災ノートでそういうワークシートという形で、これに生徒が、児童が持ち帰って、お父さんお母さんと話し合って、どういった、自分の周りの身の守り方を知ろうということで、頭をとか、というようなことを絵で今までもしていたのですけれども、こういった部分を、より今の動画を見ていただいて、本当にこういう、南海トラフ地震がもし生じたときに、しっかり命

を守れる取組を、主体的にできるってことをしっかり進めていきたいと思っております。

(質) で、1,760万円は、かかってもしかるべきだと。

(答) しかるべきというか、こういった費用がかかっておりますけど、それをしっかり有効活用を、これからしていきたいということです。

### その他の項目に関する質疑

#### ○県立高校生強盗致傷の疑いによる逮捕について

(質) 昨晚でしたか、いなべの方で、高校生2人が、強盗致傷の疑いで逮捕されていた案件があるかと思うんですけども、それについて県教委の方では把握していらっしゃるのでしょうか。

(答) 私として、時点はあれですけども。警察事案ですけども、報告は受けました。

(質) 何か、おけがをされた方への謝罪などをされたとか報告はありますか。

(答) すみません。そこまでですね。報告は詳細には受けてないです。学校においては、それぞれの学校で生徒指導を適切に行うということで、これからも進めていく必要があるというふうに思っています。

以上、11時37分終了